

平成十二年人事院規則一四一—八

人事院規則一四一—八(研究職員の研究成果活用企業等の役員等との兼業)
人事院は、国家公務員法(昭和二十二年法律第百二十号)に基づき、国立大学教員等の研究成果活用企業の役員等との兼業に関し次の人事院規則を制定する。

(趣旨)

第一条 研究職員が研究成果活用企業の役員(会計参与及び監査役を除く。)、顧問又は評議員(以下「役員等」という。)の職を兼ねる場合における法第百三条第二項の規定による承認については、規則一四一—八(営利企業の役員等との兼業)の規定にかかわらず、この規則の定めるところによる。

(定義)

第二条 この規則において「研究職員」とは、試験研究機関等(大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律(平成二十年法律第五十二号) 第十一条第一項に規定する特定試験研究機関、特許法(昭和十四年法律第二百一十一号) 第九九条の二第三項第五号に規定する特定試験研究独立行政法人科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律(平成二十年法律第六十三号) 第二条第八項に規定する試験研究機関等その他人事院の定める機関をいう。以下この項及び第四条第一項第五号において同じ。)の職員(試験研究機関等の長である職員を除く。)のうち研究をその職務の全部又は一部とする者をいう。

(承認権限の委任)

第三条 人事院は、法第百三条第二項の規定による研究成果活用兼業(研究職員が研究成果活用企業の役員等の職を兼ねることをいう。以下同じ。)に承認を与える権限を所轄庁の長又は行政執行法人の長(以下「所轄庁の長等」という。)に委任する。

2 所轄庁の長等は、前項の規定により委任された権限を部内の上級の職員のうち人事院が指定する者に委任することができる。

(承認の基準等)

第四条 前条第一項又は第二項の規定により研究成果活用兼業に係る承認の権限の委任を受けた

者(以下「承認権者」という。)は、研究成果活用兼業について法第百三条第二項の申出があった場合において、当該申出に係る研究成果活用兼業が次に掲げる基準のいずれにも適合すると認めるときは、これを承認するものとする。
一 承認の申出に係る研究職員が、当該申出に係る研究成果活用企業の事業において活用される研究成果を自ら創出していること。
二 研究職員が就こうとする役員等としての職務の内容が、主として研究成果活用事業に係るものであること。

三 研究職員の占めている官職と承認の申出に係る研究成果活用企業(当該研究成果活用企業が会社法(平成十七年法律第八十六号) 第二条第三号に規定する子会社である場合)については、同条第四号に規定する親会社を含む。
四 承認の申出前二年以内に、研究職員が当該申出に係る研究成果活用企業との間に、物品購入等の契約関係その他の特別な利害関係のある官職を占めていた期間がないこと。
五 研究職員が就こうとする役員等としての職務の内容に、当該研究職員が在職する試験研究機関等に対する契約の締結又は検定 検査等の申請に係る折衝の業務(研究成果活用事業に係る業務を除く。)が含まれていないこと。

六 研究職員としての職務の遂行に支障が生じないこと。
七 その他公務の公正性及び信頼性の確保に支障が生じないこと。
前項の承認は、役員等の任期等を考慮して定める期限を付して行うものとする。

(承認の申出)

第五条 研究成果活用兼業に係る承認の申出は、研究成果活用兼業承認申出書により行うものとする。

(報告)

第六条 第四条第一項の規定により承認を受けて研究成果活用兼業を行う研究職員は、四月から九月まで及び十月から翌年三月までの期間(第九条において「半期」という。)ごとに、研究成果活用兼業状況報告書により、次に掲げる事項を承認権者に報告しなければならない。

一 氏名、所属及び官職
二 研究成果活用企業の名称
三 研究成果活用企業の役員等としての職務の内容
四 研究成果活用企業の役員等としての職務に従事した日時等
五 研究成果活用企業から受領した報酬及び金銭、物品その他の財産上の利益(実費弁償を除く。)の種類及び価額並びにその受領の事由

(承認の取消)

第七条 前条の研究職員は、第五条の研究成果活用兼業承認申出書に記載された事項のうち研究成果活用企業に係る事項で人事院の定めるものに変更があったときは、速やかにその旨を承認権者に報告しなければならない。

(承認の取消)

第八条 承認権者は、研究成果活用兼業が第四条第一項の承認の基準に適合しなくなったと認めるときは、その承認を取り消すものとする。

(公表)

第九条 所轄庁の長等は、半期ごとに、研究成果活用兼業の状況について第六条各号に掲げる事項を公表するものとする。

(人事院の権限)

第十条 人事院は、必要があると認めるときは、所轄庁の長等及び第三条第二項の規定により研究成果活用兼業に係る承認の権限の委任を受けた者に対し、研究成果活用兼業に関する事務の実施状況について報告を求め、及び監査を行うことができる。

(研究成果活用兼業終了後の業務の制限)

第十一条 所轄庁の長等は、研究成果活用兼業の終了の日から二年間、当該研究成果活用兼業を行った研究職員を、研究成果活用兼業に係る研究成果活用企業との間に、物品購入等の契約関係その他の特別な利害関係のある業務に従事させないようにしなければならない。

(適用除外)

第十二条 この規則は、非常勤職員(法第六十条の第二項に規定する短時間勤務の官職を占める職員を除く。)及び臨時的職員については、適用しない。

(雑則)

第十三条 研究成果活用兼業承認申出書及び研究成果活用兼業状況報告書の様式その他この規則の実施に関し必要な事項は、人事院が定める。
附則 この規則は、平成十二年四月二十日から施行する。

1 平成十三年三月三十一日までの間は、第十二条中「非常勤職員(法第八十一条の五第一項に規定する短時間勤務の官職を占める職員を除く。)」とあるのは、「非常勤職員」とする。

附則(平成十二年二月二十七日人事院規則一—三三)抄

1 この規則は、平成十三年一月六日から施行する。
附則(平成十四年六月二〇日人事院規則一—三六)抄

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。ただし、第十条から第十二条まで並びに附則第四項、第五項、第六項(別表規則一四一—七(国立大学教員等の技術移転事業者の役員等との兼業)の項及び規則一四一—八(国立大学教員等の研究成果活用企業等の役員等との兼業)の項の改正規定に限る。)及び第八項の規定(以下「規則一四一—七等改正規定」という。)は、平成十四年十月一日から施行する。

(人事院規則一四一—八の一部改正に伴う経過措置)

5 規則一四一—七等改正規定の施行の際現に第十三条の規定による改正前の規則一四一—八第三項の規定により同条第一項に規定する研究成果活用兼業について承認を与えられている職員は、第十一条の規定による改正後の規則一四一—八第四条の規定に基づき、同条第一項に規定する承認権者により同規則第三条第一項に規定する研究成果活用兼業について承認を与えられたものとみなす。

附則(平成十五年三月二五日人事院規則一—三一)抄

附則(平成十五年四月一日から施行する。)

(施行期日)

1 この規則は、平成十五年四月一日から施行する。
附則(平成十五年八月二九日人事院規則一—三九)抄

(施行期日)

この規則は、平成十五年四月一日から施行する。

1 この規則は、平成十五年十月一日から施行する。  
(人事院規則一四一八の一部改正に伴う経過措置)

7 この規則の施行前に前項の規定による改正前の規則一四一八第十一条の第三項の規定によりされた承認又はこの規則の施行の際現に同項の規定によりされている承認の申請は、それぞれ第三条第二項において準用する第二条第二項の規定によりされた承認又は承認の申請とみなす。

附則 (平成一六年三月五日人事院規則一四一四)

この規則は、平成十六年四月一日から施行する。

附則 (平成一八年三月三十一日人事院規則一四一四) 抄

1 この規則は、平成十八年五月一日から施行する。

附則 (平成二〇年一〇月二二日人事院規則一四一八一二)

この規則は、公布の日から施行する。

附則 (平成二〇年二月二五日人事院規則一四五三) 抄

(施行期日)

第一条 この規則は、平成二十年十二月三十一日から施行する。

附則 (平成二七年三月一八日人事院規則一六三) 抄

(施行期日)

第一条 この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

(雑則)

第十五条 附則第二条から前条までに規定するもののほか、この規則の施行に関し必要な経過措置は、人事院が定める。

附則 (平成三二年一月一七日人事院規則一四一八一三)

この規則は、公布の日から施行する。

附則 (平成三二年三月二五日人事院規則一四一八一四)

この規則は、平成三十一年四月一日から施行する。

附則 (令和四年二月一八日人事院規則一七九) 抄

(施行期日)  
第一条 この規則は、令和五年四月一日から施行する。